



6

874

TWT 360

464

B-0042

極秘

日支基本條約ノ共同防共條項修正ニ關スル件

(昭和十五、九、一九、亞一)

一、共同防共ハ近衛三原則ノ一トシテ對支和平條件ノ重要條項ヲ成シ
今次基本條約第三條ニ左ノ如キ規定アリ

第三條

兩國政府ハ兩國ノ安寧及福祉ヲ危殆ナラシムル一切ノ共產主義
的破壞工作ニ對シ共同シテ防衛ニ當ルコトヲ約ス

兩國政府ハ前項ノ目的ヲ達成スル爲各其ノ領域内ニ於ケル共產

分子及組織ヲ芟除スルト共ニ防共ニ關スル情報、宣傳等ニ付緊

密ニ協カスヘシ

日本國ハ兩國共同シテ防共ヲ實行スル爲所要期間中兩國間ニ別

外務省

日本標準規格B5
1MT 360

465

ニ協議決定セララルル所ニ從ヒ所要ノ軍隊ヲ蒙疆及華北ノ一定地
域ニ駐屯セシム

外務省

日本標準規格B5

1MT 360

466

B-0042

ニ然ルニ我國ノ意圖スル對蘇國交調整問題ニ關聯シ斯ノ如キ規定ノ存在ハ假令現條約案カ防共ハ國內問題ナリトノ建前ヲ執リ對蘇防衛ナルコトヲ隱スニ努ムルモ必ス對蘇國交調整上障害トナルヘシトノ見地ヨリ此ノ際右第三條ヲ修正シ防共ノ字句ヲ條約面ヨリ抹殺スルコト然ルヘシトノ意見アリ

外務省

(日本標準規格B5) IMT 360 467

三、右防共ノ字句ハ表面的ニ抹殺スルニ止マリ何等現條約案ヲ根本的ニ修正スルモノニアラス從テ若シ支那側ニ於テ日本ハ一般の共同防衛ノ主張ヲ復活シ之ニ籍^レシテ全支那ニ亘リ出兵ヲナスカ如キ魂膽アルヘシトノ疑ヲ抱クモノアルニ對シテハ我方ニ於テ其ノ然ラサル所以ヲ納得セシメ必要ニ應シ議事錄等ヲ以テ之ヲ明確ナラシメ得ヘシ

四、汪兆銘ニ對シテハ右我對外國策上又余面和平實現見地ヨリ日支ノ利益上肝要ナルコトヲ説明セハ之ヲ承諾セシメ得ルモノト認メラ

外務省

(日本標準規格B5) IMT 360 468

B-0042

支那側ニ對シ右修正ヲ提案スル時期ニ付テハ(イ)對獨次テ對蘇國策
 決定ノ上ニテ差支ナシ(ロ)對蘇交渉カ相當見透シツキタル上ノコト
 トシ度(ハ)條約文ヲ實際ニ變更スル時期ハ別トシ此際汪ニ對シ開談
 シ差支ナシ等ノ意見アリ

(日本標準規格B5) IMT 360 469

外務省

五、就テハ廿日條約案審議席上ニ於テ本件字句修正ノ件併シ構成相
 成ルト共ニ右ニ付支那側トノ開談ノ時期ハ對獨對蘇國交調整ト睨
 ミ合セ追テ決定スルコトニ會議ノ意見ヲ取纏メ相成様致度
 六、右趣旨ノ下ニ現條約案ニ對スル修正意見一應別紙ノ通り

(日本標準規格B5) IMT 360 470

外務省

B-0042

基本條約第三條修正案

第三條 兩國政府ハ東亞ノ道義ヲ破壞シ兩國ノ安寧及福祉ヲ危殆ナラシムル一切ノ脅威ニ對シ共同シテ防衛ニ當ルコトヲ約ス
日本國ハ前項ノ目的達成ヲ容易ナラシムル爲所要期間中兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ所要ノ軍隊ヲ蒙疆及華北ノ一定地域ニ駐屯セシムヘシ

中華民國政府ハ日本國カ從前ノ慣例ニ基キ其ノ海艦船部隊ヲ中華民國領域内ニ於ケル特定地域ニ駐留セシメ得ルコトヲ承認スヘシ
註(一)條文案ハ尙推稿ヲ要ス

(二)現條約案第三條ノ第二項ハ削除シ必要ニ應シ秘密協定又ハ議事録中ニ之ヲ移スモノトス

極秘

(三)第五條(艦船部隊ノ駐留ニ關スル件)ヲ現在ノママ第五條トシテ殘ス^時ハ第三條新案ニ「東亞ノ道義云々」トアリ又右ヲ受ケル第三條第二項カ北支蒙疆ノ駐兵條項ナルニ鑑ミ依然防

共ノ臭味去ラサルヲ以テ第五條ヲ獨立ノ條文トセス之ヲ其ノママ第三條ニ合併方可然ト認ム

(四)支那側ノ疑惑ヲ拂拭スル爲第三條第一項ハ共同防共ノ趣旨ニシテ現在案ニ比シ何等内容ニ變更ナキ旨ハ議事録ニ明瞭ニ記載スルコトヲ妨ケス

(五)本修正ヲ爲ス場合條約附屬書中ノ共同防共ノ字句モ適當修正ヲ要ス

極秘

撤兵條項ニ關スル所見

一 議定書第三條末段支那側ノ治安確立ノ保障ハ我方カ撤兵ヲ完了スル爲ノ條件ヲ爲スモノナルコトハ條文解釋上當然ノコトナリ

註、右ハ支那側モ之ヲ認メ(1)議事録ヲ以テ明確ニ治安確立セサレハ日本軍ハ撤退セサルコトヲ承認セリ(右承認ハ「同意」又ハ「諒承」等ノ文字ヲ以テ明確ニ表現セラレ居ラサルモ議事録ノ文脈上右承認ノ事實ハ一點疑ノ余地ナシ(四)又支那側ハ治安確立カ撤兵完了ノ條件ナルコトヲ知悉シタルカ爲ニ「治安確立」ニ定義ヲ與ヘ之ニ依リ撤兵ノ完了カ有耶無耶トナルカ如キコトナカラシメントセリ(但シ現在ノ如キ定義ヲ爲スコトニ依リ支那側ハ自ラ其ノ企圖ニ逆行スル結果ヲ招來セリ)

(日本標準規格B5) IMT 360

473

外務省

ニ 第三條ノ「治安確立ト共ニ」ヲ素直ニ雜念ヲ挾マス讀メハ第三條ハ支那カ撤兵開始(即チ戰爭狀態終了ノ時)ヨリ二年以内ニ治安ノ確立ヲ保障シ之ヲ條件トシテ日本ハ撤兵開始ヨリ二年以内ニ撤兵ヲ完了スヘントノ建前ヲ記述シタルモノナリ從テ支那カ右保障ヲ二年以内ニ實行シ得サルトキハ日本ハ右二年以内ニ撤兵ヲ完了スヘキ義務ヲ解除セラレ日本カ駐兵ヲ欲スルニ於テハ何等ノ手續ヲトルコトナク當然ニ駐兵ヲ繼續シ得ルコト明白ナリ

三 仍テ撤兵完了期ノ問題ハ右二年經過ノ時期ニ於テ日支間ニ改メテ協議ヲ要スヘキ筋合ナリ然ルニ支那側ハ今次議事録ヲ以テ特ニ期間ヲ明示スルコトナク治安確立スル迄ハ日本ハ撤兵ヲ完了シ得サルコト及撤兵ノ完了ハ治安確立ヨリ二年以内ナルコトヲ認メタリ

(日本標準規格B5) IMT 360

474

外務省

B-0042

其ノ結果トシテ日本カ撤兵開始ヨリ二年經過スルモ治安確立セサル限リ引續キ駐兵シ得ル件ニ付テハ單ニ第三條ノ條文解釋ニ依ルノ外日支間ニ諒解成立セルコトニヨリ論議ノ餘地ナキコトトナリ又撤兵完了期ニ付テモ撤兵開始後二年ノ時期ヲ俟ツ迄モナク實質的諒解既ニ成立セルヲ以テ前述ノ如ク二年經過後ニ行ハルルコトアルヘキ日支間ノ協議ハ今日既ニ實質的ニ解決サレ居ル次第ナリ(要スルニ議事録ノ作成ニ依リ日本軍ハ撤兵開始ノ時期ヨリ起算シ治安確立セサレハ二年以上即チ治安確立ニスルX年プラス二年間駐屯シ得ルモノナルコト明白トナリ「治安確立後二年以内」ニ撤兵ヲ完了セハ可ナリトノ所期ノ目的ヲ達シタリ)

(日本標準規格B5)
IMT 360

外
務
省

四從テ或ル問題ハ右諒解ヲ此ノ際條約化スヘキヤ又ハ之ヲ前記ノ二年經過スル迄ノ間ノコトトスヘキヤ或ハ又右二年經過ノ際ニ於テ之ヲ條約化スル要アリヤ等ノ點ナルカ此ノ際直チニ條約化シ得サル事態ナルコトハ不幸ニシテ認メサルヲ得ス。之ヲ將來條約化スヘキヤ否ヤ即チ其ノ必要性ノ問題ハ其ノ間ノ事態ノ推移ヲ見テ決定シ充分ナルヘシ又若シ條約化スル要アル際ニ於テモ條約ノ實質ハ既ニ日支間ニ諒解成立シ居ルヲ以テ實質的ニハ問題ナク之ヲ解決シ得ヘキ處形式的ニ之ヲ條約化シ得ルヤ否ヤハ其ノ當時ニ於ケル日支兩國ノ實力及汪政權ノ立場ヲ考慮シ決定セラルヘク換言セハ前述ノ一條約化スル必要性ノ問題トナルヘシ

(日本標準規格B5)
IMT 360

外
務
省

B-0042

六「治安確立ト共ニ」ナル字句ハ當初日支ヨリ各「治安確立後」又ハ「治安確立ト同時ニ」ノ解釋ヲ附サレントシ「ト共ニ」ハ時間的觀念ヲ示ス文字ナリシカ前記ノ如ク第三條ノ條文解釋ニ加ヘ議事録ノ作成ニ依リ「時」ノ問題ハ解決シ「ト共ニ」ニ時間的觀念ヲ與フルヲ要セサルコトナレリ而シテ撤兵完了期カ延長スル根本的條件ハ「治安確立カ撤兵完了ノ條件ヲ爲スコト」ニアルヲ以テ今ヤ「治安確立ト共ニ」ハ「治安確立ヲ條件トシテ」又ハ「治安確立ノ事實現ハレ來ルニ於テハ」ト解釋セラルヘキモノトナリ（ツマリ治安確立ノ保障ガ撤兵完了ノ條件ナルコトハ第三條ノ末段ニテ明カナルモ更ニ之ヲ明確ナラシムル爲ニ「治安確立ト共ニ」ヲ前段ニ挿入シタル譯ナリ）而カモ斯ク解釋スルコトニハ毫末ノ

外務省

(日本標準規格B5)

JMP 360

478

五第三條ノ解釋及議事録ヲ右ノ如ク取扱フトスルモ撤兵開始二年后ニ於テ尙日本カ駐兵スル場合外支側ヨリ不信ヲ問ハレサルヤノ問題ハ議事録ノ一方的發表ニ依リ充分對抗シ得ルコトナリ

外務省

(日本標準規格B5)

JMP 360

477

B-0042

誤魔化シナク何等非難ヲ受クルコトモナシ
 七 議事録ノ當初三行ニ基本條約第四條ヲ引用シタルハ議定書第三條
 ノ末段ヲ直接法ニ引用シ得サル政治的理由ニ依ル處右ノ中「撤兵
 完了前」トアルハ第三條トノ關係ニ於テ即チ「治安確立前」ヲ意
 味スルコト當然ニシテ次ノ行トノ關係ニ於テ論理的矛盾ナシ
 日本ガ共通治安維持ニ協力スル義務ハ撤兵完了ニ依リ消滅スルニ
 依リ日本軍ハ速ニ撤兵スヘシト言フガ如キ支那側ノ主張出ツルト
 スルモ斯カル主張ハ支那ガ治安ノ保障ヲ爲シタル上ニアラサレハ
 何等ノ迫力ナク眞面目ニ問題トナルモノトハ考ヘラレス
 八 之ヲ要スルニ撤兵條項ハ現在ノ條約案及議事録ニテ落付ケ差支ナ
 ク又其ノ間何等ノ誤魔化シナシト認ム

外務省

日本標準規格 B5
IMT 360 479

B-0042